スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 阿見町

自 治 体 名 ： 茨城県阿見町
担 当 課 名 ： 教育委員会生涯学習課
電 話 番 号 ： 029-888-2526

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

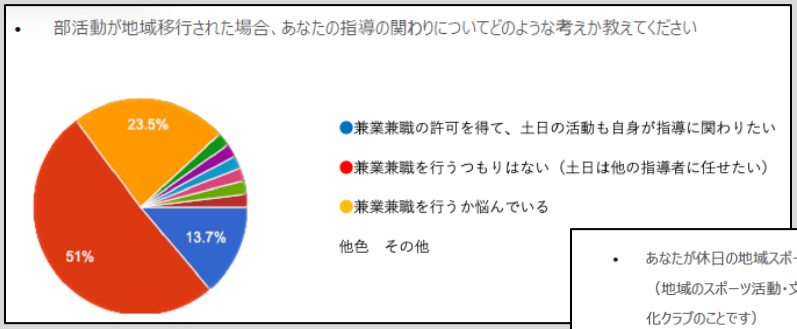
基本情報

面積	71.40 ㎢
人口	50,317人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	1,184 人
部活動数	32 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

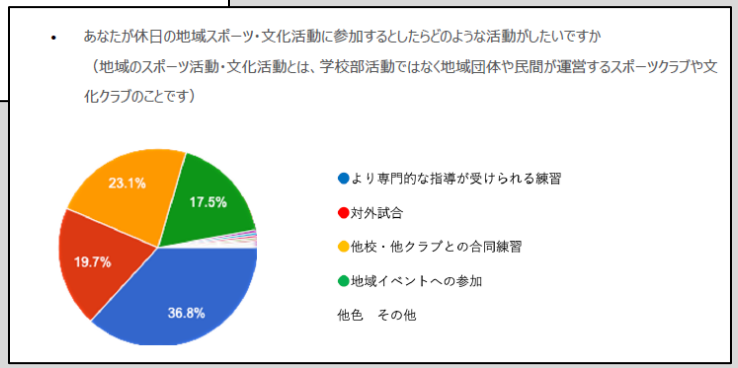
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

阿見町では3中学校（阿見・朝日・竹来）あるが、生徒数や部活動の部員数に差が出ている。近年は部員数の不足により、朝日中学校では野球部の休部、竹来中学校ではバスケットボール部が廃部、サッカー部の合同部活動化（他市町村と）となっている。また、競技経験のない教員が顧問となっている部活動もあり、学校部活動だけでは生徒がスポーツに取り組む持続的な環境を維持することが難しくなっている。

令和5年度に教員、生徒、保護者に実施したアンケートでは、51%の教員が地域移行した場合、土日の指導を他の指導者に任せたいといった結果や、生徒・保護者では部活動に入った目的が友達と楽しく活動するため、地域クラブ活動に求めるものはより専門的な指導といった回答が共通して多く見られた。



出典：令和5年度学校部活動現状調査（学校教職員アンケート）



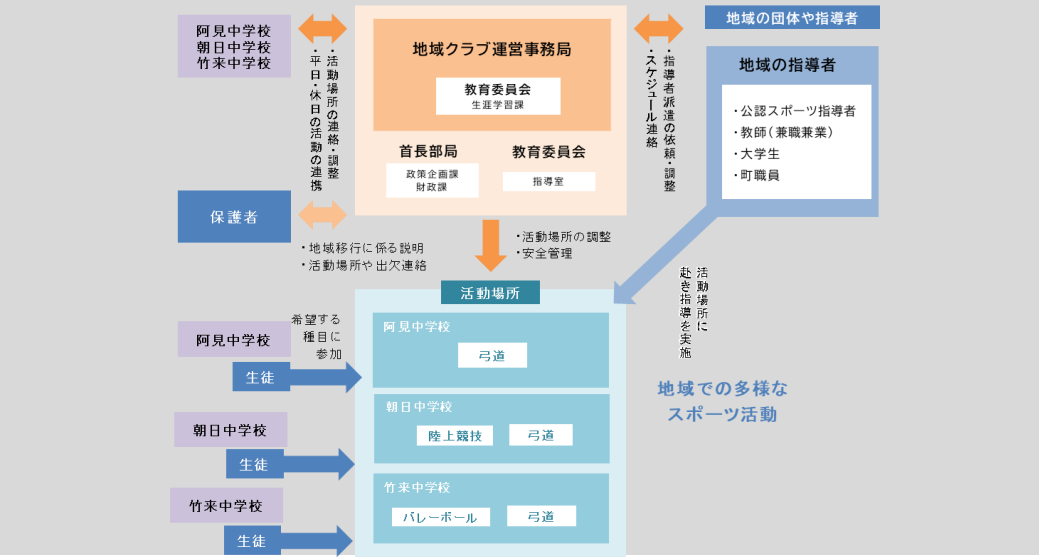
出典：令和5年度学校部活動現状調査（生徒アンケート）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・地域クラブの運営（活動・会員管理、指導者調整、指導者謝礼支払い等）
・部活動地域移行に関する検討
・学校との連携
・関係団体との連携・連絡調整

◉首長部局

・政策・予算に関する調整

年間の事業スケジュール

令和6年5月	教員向け説明動画・資料 町内小中学校配布
令和6年7月	兼職兼業教員希望者向け説明会の実施
	第1回検討委員会の開催
令和6年8月	保護者説明会の開催
令和6年9月	第2回検討委員会の開催
令和6年10月	地域クラブ活動（陸上競技）の活動開始
令和7年2月	地域クラブ活動（バレーボール・弓道）の活動開始
	第3回検討委員会の開催
令和7年3月	地域クラブ活動の継続 （陸上競技・バレーボール・弓道）
	次年度に向けた準備・調整

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（8 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	16人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法
阿見町地域クラブ（仮称）	教育委員会直営	・陸上競技 ・バレーボール ・弓道	・陸上競技・バレーボール：週 1 回 ・弓道：月 1 回	・陸上競技：土曜日午前 ・バレーボール：土曜日または日曜日午前 ・弓道：土曜日午後または日曜日午前	・1年生：63人 ・2年生：49人 ・3年生：4人	令和 6 年 10月～	町内中学校	16人	3人	なし	中体連・その他：部活動

2.実証内容と成果

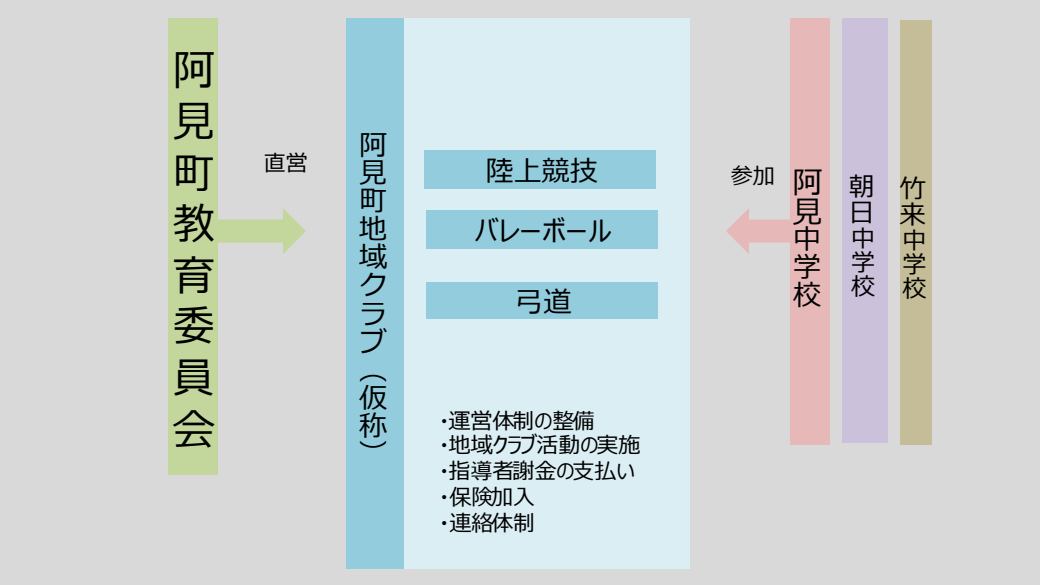
スポーツ庁

主な取組例

●阿見町地域クラブ（仮称）活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	・陸上競技 ・バレーボール ・弓道
運営団体名	阿見町教育委員会生涯学習課
期間と日数	・陸上競技：令和6年10月26日～ 月4回程度 ・バレーボール：令和7年２月8日～ 月4回程度 ・弓道：令和7年２月8日～ 月1回程度
指導者の主な属性	小中学校教員、町職員、大学生、 町内在住・在勤者
活動場所	阿見中学校、朝日中学校、竹来中学校
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	なし（教育委員会負担）
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者（阿見町教育委員会生涯学習課）

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う

●指導者　16名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組　地域クラブの体制整備・活動開始

取組事項

部活動地域検討委員会の設置や指導者の募集、モデル事業の実施を通して、阿見町における地域クラブの体制を整備し、活動を開始する。

モデル事業の取り組みにより判明した課題を踏まえ、令和7年度以降の地域移行に関する検討や更なる地域移行の拡大を目指す。

取組の成果

〇部活動移行検討委員会の設置・開催（年３回）

〇指導者募集の取り組み

・教員向け説明動画の配信、兼職兼業教員希望者向け説明会の実施
：兼職教員4名
・町内での指導者募集（メール、ホームページ、チラシ配布）：採用者6名
・大学生への指導者協力依頼：4名

〇モデル事業の実施（地域クラブ活動開始）

・講座型地域移行：陸上競技
・拠点校地域移行：女子バレーボール
・各学校・各種目地域移行：弓道

上記取り組みを実施し、地域クラブが活動するに当たっての体制整備を行い、活動を開始することができた。

今後の課題と対応方針

〇指導者の確保

・課題：モデル事業を実施した結果、指導者の確保が大きな課題となった。指導者の負担をなるべく少なくし持続可能な活動とするためにはより多くの指導者が必要となる。特に各学校を会場として活動を行う場合、１か所で活動する種目と比較し、倍以上の指導者が必要となる。
・対応方針：チラシ配布やその他広報媒体（町広報紙・ホームページ・メール）での継続的な指導者募集
現役大学生へのアプローチ

〇学校との連携

・課題・対応方針：現行部活動とのスケジュール調整をより密にし、円滑な地域移行を進める。また、学校施設の鍵の管理について、今後検討・協議を行う。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は地域クラブの開始に向けた体制整備、活動開始に重点を置き取り組んだ。

成果として、以下の事項が挙げられる。

・部活動地域移行検討委員会の設置・開催による関係者間での協議・意見交換の実施
・教員向け説明動画・資料の配信、保護者説明会の開催による地域移行・地域クラブの周知・理解促進
・兼職兼業教員希望者向け説明会、町内でのチラシ配布や大学生へのアプローチによる指導者募集・採用
・地域クラブ活動開始（陸上競技、女子バレーボール、弓道）

一方、課題としては以下の事項が挙げられる。

・より多くの指導者確保
・学校との連携（スケジュール調整・共有、施設管理）

●成果の評価

今年度の取り組みの結果、阿見町として地域クラブをスタートできたことは大きな成果である。

今年度は３種目をモデル事業と定め、種目の特性に合わせ、「誰でも参加できる講座型地域移行：陸上競技」、「拠点校を設定し合同練習を開催する拠点校地域移行：バレーボール」、「各中学校に指導者を派遣する各学校・各種目地域移行：弓道」と異なる3パターンで活動を実施した。

その結果、３パターンともメリット・デメリットがあることが確認できたが、3パターンに共通して挙げられる課題は指導者の確保であった。パターン・種目によって必要な指導者数は異なるが、指導者が必要数に満たず活動が中々スタートできない種目もあった。

●今後に向けて

上記、成果の評価に挙げた「指導者の確保」が今後の重要な取り組み課題となる。

今年度はモデル事業３種目（陸上競技、バレーボール、弓道）の指導者確保に取り組んだが、今後は指導者募集の枠を拡大し、地域移行種目の増加を目指す。

地域移行種目の増加については、今年度、異なるパターンで3種目実施した成果・課題を活かし、各種目の状況に合わせたパターン設定・移行方策を検討し順次実施する。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

広報資料

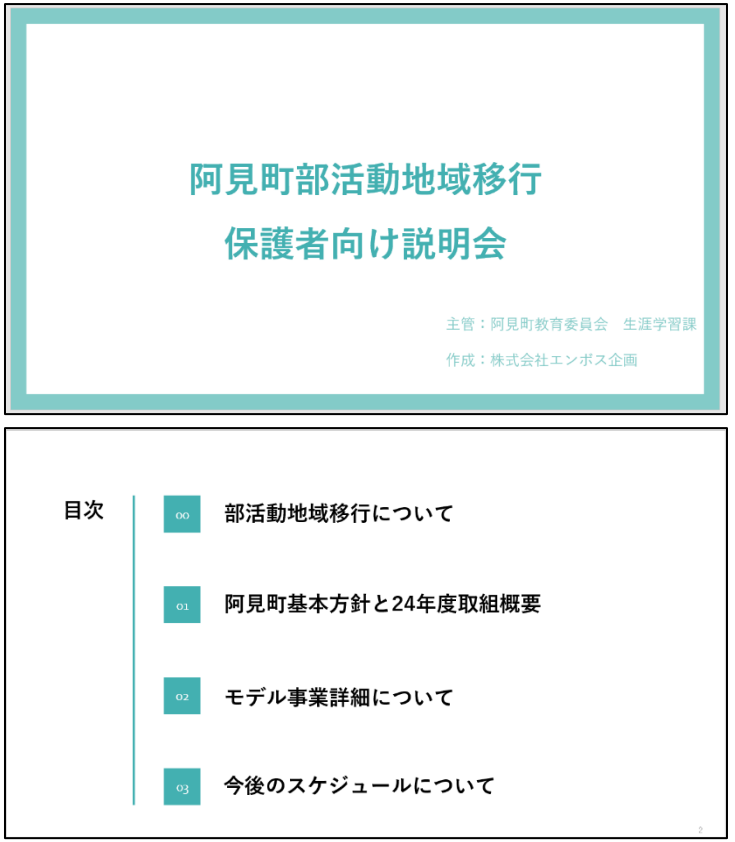
指導者募集のため、以下のチラシを町内全世帯へ配布したほか、町ホームページに掲載した。



【指導者募集チラシ】

出典:阿見町地域クラブ活動指導者募集チラシ

地域移行・地域クラブについての周知や理解促進のため、保護者向け説明会を実施した。（欠席者向けに説明動画の配信や内容を一部修正した資料を町ホームページへ掲載）



【保護者説明会資料（一部抜粋）】

出典:阿見町部活動地域移行保護者説明会資料

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【地域クラブ（陸上競技）の様子】



【地域クラブ（バレーボール）の様子】



【地域クラブ（弓道）の様子】



【地域クラブ（弓道）の様子】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年			令和6年			令和7年
検討開始	▶	アンケート実施、休日部活動現地調査	▶ 検討委員会の設置、指導者の調整	▶ 部活動顧問との調整、生徒・保護者への説明	▶ 地域クラブ活動の開始	▶ 地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー

町教育委員会、学校

●経過

令和５年度より地域移行に関する具体的な検討を開始し、生徒・保護者・教員向けアンケート実施による意識調査、休日部活動の現地調査による実態調査を行い、町地域移行方針案を策定した。

令和６年度は学校、スポーツ・文化団体、保護者、教育委員会等で組織する検討委員会を設置し、町地域移行方針案や令和６年度モデル事業、令和７年度以降の方策について、協議した。

また、教員向け説明動画の配信や兼職兼業教員希望者向け説明会、保護者説明会を開催し、関係者へ地域移行・地域クラブの周知や理解促進を図った。

●実施内容

令和６年度はモデル事業として以下の３種目・パターンで地域クラブ活動を実施した

・講座型地域移行：陸上競技

・拠点校地域移行：女子バレーボール

・各学校・各種目地域移行：弓道

●実施にあたって生じた課題

令和６年度モデル事業の実施に当たって、指導者を必要数確保することに時間がかかり、指導者の確保が大きな課題となった。

●今後の展開

令和７年度は令和６年度実施の３種目に加え、新たに４種目程度追加し、地域クラブ活動の実施を目指す。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



出典:阿見町地域クラブ移行方針